

東京教区時報

第1097号
2008年10月19日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 伊藤裕元

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: comm.tko@nskk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

司祭パウロ速水敏彦

東京教区退職司祭。10月12日逝去、81歳。16日・17日大宮聖愛教会で葬儀。京都教区出身、四日市聖アンデレ教会で牧会後、1960年立教大学チャプレンに着任(東京教区籍)し、教授・学部長・チャプレン長および立教学院院长(03年4月)などを間歇して歴任。また聖公会神学院ではチューター・兼任講師・教授として、さらに立教女学院短大学長(89年〜95年)としても奉職。その間78年まで聖ペテロ・聖アンデレ・聖ミカエル等各教会で勤務・牧会に就き、97年定年退職後も近年まで、北関東教区を含めて諸教会での

礼拝・活動奉仕にかかわった。召された魂のうえに平安があらりますように。

◇秋のバザー情報4(10月)

26日(日) 三光11時半〜15時・聖パウロ12時〜15時・聖ヨハネ12時〜14時・神田11時〜14時・聖三一12時半〜15時半・聖十字11時15分〜14時(14時〜15時) 10月中の毎日曜礼拝後〜16時 毎水曜10時半〜16時

今週・来週の予定 10月19日〜11月1日

- 19(日) 聖霊降臨後第23主日 主教巡回 聖ルカ礼拝堂
- 21(火) 主教会(名古屋) (~23)
- 23(木) 信徒講座①=講師 山口里子(教区会館)
- 26(日) 聖霊降臨後第24主日 主教巡回 千住基督教会
- 27(月) 人権委員会
- 28(火) 銀座朝拝会
- 29(水) 財政委員会
- 30(木) 山手G牧師協議会(聖三一) 多摩G牧師協議会(八王子) 信徒講座②=講師 山口里子(教区会館) H P 小委員会
- 31(金) 信仰と生活委員会
- 11月 1(土) 教区墓地礼拝

《掲載記事の転用可(事前連絡要)》

社会の底辺にいる小さくされた者を、こよなく愛した一人に石井亮一がいる。「知的障害者の父」と言われる彼の人生の生き方を決めたのが、立教大学でのウイリアムズ主教との出会いだ。

乃川学園」と名称を替え、知的障害児専門の施設とし、園生の自立を目指した教育、福祉、医療に専念。

《恵みに生かされて》

小さくされた者へ 愛の働き

司祭 吉村庄司

928年に現国立市谷保に移転。昭和大不況と重なったが、最高の協力者・筆子夫人の働きもあり、風光明媚な新天地の中心にチャペル、矢川をはさんで園生の寮、教育と研究の場である本館を配置。時は流れ国登録有形文化財に指定された本館が、目下保存修復工事中で来年3月末完成予定

財を投じ日米の聖公会等の援助のもと、孤女教育施設「聖三一孤女学院」を創立。児童の中に知的障害を持つ者があり、彼女たちの教育こそ自分に与えられた使命と渡米し、E・セガン博士の治療教育法を学ぶ。再度の渡米で研究を重ねる。帰国後、滝野川の地名に因んで「滝

定。筆子愛用の「天使のピアノ」とチャペルが国立市登録文化財に指定された。百17年前に石井亮一によって播かれた愛の種が豊かに実り、日本の福祉文化の歴史的な存在となった滝乃川学園の使命は誠に重大である。神の恵みに感謝!

(退職・滝乃川学園囑託チャプレン)

▽教区日曜学校連絡会へ秋の研修会▽ 「子どもの声があふれる教会をめざして」のテーマで11月7日(金)20時～8日(土)13時半、小山祈りの家(北関東教区施設)で。現地集合、参加費5千円(宿泊費・2日目2食)、30人以内。信仰と生活委員会後援。申込みは明日20日まで。連絡会代表・高橋頭司祭宛に、Tel03(3338)4145。

▽聖社連(日本聖公会社会福祉連盟)第49大会 東京 明年の日本聖公会宣教150周年・聖社連第50回総会(神戸)を前にプレ・カンファレンスを10月23日(木)～24日(金)、聖路加国際病院・立教大学を会場に(宿泊)築地・銀座キャピタルホテル)。日本に福音の種を蒔かれた先駆者

のチャニング・ムーア・ウイリアムズ主教(江戸初代監督)の教育・医療・福祉での足跡を学び訪ねる。詳細は東部事務局(聖救主福祉会まこと保育園)宛、Tel03(3461)1428。

▽立教女学院聖歌CD第2弾「ひかりにあゆめよ・私たちの聖歌」オルガン⇨岩崎真実子、合唱⇨同院高校聖歌隊・聖マーガレット礼拝堂聖歌隊・高校聖歌隊OG有志。「愛唱曲集」のおもむきで全24曲。頒価⇨2千円。照会⇨同院キリスト教センター・03(5370)3038。

▽聖ヨハネで台東九条の会南部地区の集い スライドショー「みんなでつなぐ願い」と思い!」⇨10月29日(水)19時～20時半。Tel03(5815)8586。

《今、この教会では…》

三 光 教 会

宣教の母体として地域に根ざし、地域の「たまりば」となる教会を目指して、4月から昭和大学旗の台病院の先生方との協働で「いのちと死を考える会」を発足しました。

第1回は緩和ケアの現場から高宮有介先生のお話で「死から生といのちを考える」、6月の第2回は、精神神経科の堀宏治先生をお招きして「認知症を考える」というテーマで開催しました。各回80余名の参加者の中、2回を合わせて35名の教会外の方々のご参加がありました。第3回は9月28日午後、高宮先生のパート2を予定しています⇨執筆時。(加藤由喜子)

【学びと働きから】87

ランベス会議報告(1)

主教 植田仁太郎

10年に一度、カンタベリー大主教が、全世界の聖公会の主教を召集して、会議を開催します。かつてその会議は、ロンドンの大主教の居城で行われましたので、その居城の名前をとって、「ランベス会議」と呼ばれます。

今回(第14回)は、前回と同じく、カンタベリー大聖堂のある、古都カンタベリーの町はずれにありますケント大学のキャンパスで行われました。全世界で約8百人おられるという主教のうち、6百40人ほどの主教たちが参集しました。「どうぞお連

れ合いもご出席下さい」という呼びかけがありましたし、それに会議のスタッフを加えました総勢千数百人が、7月15日から3週間あまりを一緒に過ごすという、一大イベントでした。

今回の会議の特徴は、会議とは銘打っていても、10年前の会議とは違って変わって、ただひとつの決議もしないという、むしろ主教たちの修養会、勉強会と呼んだ方が相応しい会合でした(先回の会議では、教会と世界が直面する諸問題に、何と百以上の決議がなされました)。もともとカンタベリー大主教も、そしてランベス会議も、どんな指示や決議を行ったとしても、管区を越えては強制力はありませんから、ある決定を行う会

はなくて、いろいろな問題に理解を深め、意見を交換するための会合というのも、それなりの意味のある会合でしょう。

そのような性質の会として準備されましたから、プログラムは、主として、礼拝・聖書研究・課題別勉強会の三つを柱として組み立てられていました。そして会議そのものの公式プログラムの周縁で、自主的なアピールや交わりを中心としたイベントも用意されました(たとえば、韓国のオモニ・クワイヤーのコンサートとか、聖公会関係学校のパーティとか…)。

(東京教区主教)

*以下次号。本稿は3回連載の企画で予定されています。